

この調査は、農林水産省で実施している木材統計調査の一環として行われるものであり、木材生産についての実態を把握して林業行政の基礎資料を作成することを目的としています。
この調査で得られる調査結果を外に漏らしたり課税等の資料に用いることは、法律で固く禁止されており、他に漏らすことはありませんので、是非ありのままをご記入願います。

担当者名	
担当者の電話番号	



- ・記入には濃い黒い鉛筆を使用して下さい。
- ・間違いは消しゴムできれいに消して下さい。

記入例 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

(この欄は農林水産省で記入します)

調 査 年	調 査 月	局・農政 事務 所 番 号	センタ- 番 号	工 場 番 号	階 層 等 番 号					
					全 数	標 本 I	標 本 II	標 本 III	新 再 設 開	休 業 業
20					①	②	③	④	⑤	⑥

月初手持ち
製材用素材在庫量 → 0 1 単位：m³

月初手持ち材
製材品在庫量 → 0 2

1 製材用動力の出力数を記入してください。

注：製材用機械だけでなく、製材に関係のある機械の動力も含めてください。

出力数 → 1 1 kW

2 製材用素材の入荷量を記入してください。

注1：①の素材入荷量には、製材するために工場土場に入荷した手持ちの素材（長さ180センチメートル以上のもので、輸入外材については半製品を含みます。）で、そのうち貸びきを依頼された材や製材以外の用途に使うために入荷した素材を除いた数量を記入してください。
2：②の転売したもの・貸びきに出したものは、前記①の素材入荷量のうち、都合によって素材のまま転売したもの及び他の工場に貸びきを依頼した素材の量を記入してください。なお、大径木を割材（製材品にはしない。）にするだけの貸びきは、貸びきとして扱わないので含めなくてください。
3：手持ち製材用素材の入荷量には、上記①の素材入荷量から②の転売したもの・貸びきに出したものを差し引いて記入してください。

素材入荷量① → 2 1 単位：m³

転売したもの・貸
びきに出したもの② → 2 2

手持ち製材用素材
入荷量① - ② → 2 3 A

3 製材用素材の消費量を記入してください。

注：大径木を他の工場で割材にさせたものを、自工場ですらに製材機にかけて製材した場合は、手持ち材消費量としてください。

合 計 → 3 1 単位：m³

手持ち材消費量 → 3 2

貸びき材消費量 → 3 3 B

4 樹種別に製材用素材の入荷量を記入してください。

注：2の製材用素材入荷量のうち、手持ち製材用素材入荷量Aと、3の製材用素材消費量のうち貸びき材消費量Bとの合計について、国産材・外材別、樹種（種類）別に記入してください。

合計（A + B） → 4 1 単位：m³

国 計 → 4 2

産 針 葉 樹 → 4 3

材 広 葉 樹 → 4 4

外 計 → 4 5

南 洋 材 → 4 6

材 うち、ラワン材 → 4 7

米 材 → 4 8

北 洋 材 → 4 9

材 ニューゼaland材 → 5 0

そ の 他 → 5 1

5 製材用素材の月末在庫量を記入してください。

注：月末現在で工場土場に残っている製材用素材のうち、手持ちのものについて記入してください。貸びきを依頼された素材や製材以外の用途に使うために、一時工場土場にある素材は除いてください。

月末在庫量 → 6 1 単位：m³

6 製材品について記入してください。

注1：生産量については、手持ちの製材用素材から製材した製材品と、貸びきを依頼されて製材した製材品の両方を加えて記入してください。
2：出荷量には、手持ち材による製材品で、その月に販売したものと自家業務用に消費した製材品の数量に、貸びき材による製材品の生産量を加えて記入してください。
3：在庫量には、月末現在で自工場の製材品在庫量を記入してください。ただし、貸びき材による製材品は除いてください。

生 産 量 → 7 1 単位：m³

出 荷 量 → 7 2

月 末 在 庫 量 → 7 3

7 今後2か月における製材用素材の消費見込量を記入してください。

注：貸びき見込量も含めて記入してください。

月 → 8 1 単位：m³

月 → 8 2

(備考欄) 主な調査項目の増減理由があれば記入してください。

ご協力ありがとうございました。
月 日までに下記あてに送付してください。